

米海軍佐世保基地と日米関係の重要性について



米海軍佐世保基地

司令官 チャールズ・W・ロック

(経歴は文末に掲載しております)

この度は、「ながさき経済」に寄稿できますことをたいへん光栄に存じます。米海軍佐世保基地と日米関係の重要性についてお話することは私の大きな楽しみの一つであります。

佐世保は1889年7月1日に旧帝国海軍鎮守府が置かれて以来、重要な海軍の拠点です。1905年、東郷平八郎提督に率いられた連合艦隊がロシアのバルチック艦隊との闘いの為、佐世保港を出港し日本海海戦で勝利を収めたことは海軍の歴史の中でも有名です。小さな漁村だった佐世保の人口は基地が大きくなるにつれ増加してきました。本当に、佐世保は古い海軍の街なのです。

日米同盟そして米海軍佐世保基地と佐世保市の関係はたいへん強力です。米軍と日本の海上自衛隊は定期的に共同訓練を行っておりますし、吉田総監や佐藤幕僚長、湯浅司令の配下にある艦船そして海上保安部の早川部長と佐世保港を共同使用できるという恩恵にも与っております。陸上自衛隊とも共同訓練も行っていることも私達の誇りです。

私は米海軍佐世保基地の全人員と私達が成し遂げた業績をたいへん誇りに思います。多くの読者の方達にご存知だと思いますが、佐世保基地は約1,650名の日本人従業員がおり市内で大きな雇用主の一つとなっております。彼らは基地が任務を継続していくためにとて

も重要な存在で、私は彼ら無しには仕事をすることができません。軍人や軍属は異動がありますが、専門知識を持ち熟練した日本人従業員はずっとそこで勤務し続けてくれるのです。

米海軍佐世保基地の役割は大きく2つに分けられます。1つは、第7艦隊の全艦船に弾薬や燃料、修理、補給のサービスを提供すること。2つめは、軍人や軍属に同行して来る家族へのサポートです。これは私達が提供するサポートの中でも最重要事項です。そして佐世保の街は艦船の修理、家族への住居の提供、品質の高い品物やサービス、娯楽そして素晴らしいレストランやお店などあらゆる分野で私達を支えてくれています。地域の皆さんは豊かな文化をシェアしてくださいまし、また私達アメリカの文化を経験する機会も大切にしてくださいまし。環境面では、弓張岳の頂上から街を見下ろすと活気のある港の風景が見えたり、また反対側には九十九島国立公園のサンセットを見ることが出来たりと私達を笑顔にしてくれます。

私達は、佐世保市と緊密に調整しながら長年にわたり交流を続け、どのように事を運ぶのが良いか検討し、改善の余地があれば喜んでそうしてきました。ここからは、佐世保基地がもたらす経済効果や地域の皆様との交流についてご紹介いたします。

佐世保市の要望により毎年、艦船修理、基

地外の住宅賃貸状況、円の売り上げ、公共料金、従業員の給与、基地内売店の物品仕入れ等、主要な分野での経済データをお知らせしております。

主な例を挙げますと、

1. 過去5年間に年間100万ドルを超える経済効果のあった年があります。
2. 艦船修理の契約額は2,800万ドルから4,500万ドルの範囲にわたります。古くから海軍の街である佐世保は、この分野で能力の高い労働力が豊富なことで定評があります。
3. 1,650人の日本人従業員に対して支払われる給料として、年間1億ドル近くが地元に残っています。私は、この統計を見て、彼らのような素晴らしい従業員とその家族がきちんと守られてることがわかって嬉しく思います。
4. 地元経済への貢献といえば、日本政府による施設整備計画も、その一つに挙げられます。年間、この施設整備によって、かなりの額が計上されます。その大半を占めるのが、大きな施設整備にかかる費用です。例を挙げますと、横瀬の新しい世界トップクラスのエアクッション型揚陸艇(LCAC)施設や、前畑弾薬施設と針尾弾薬施設の、針尾への移転集約などです。これらの建設費などは、佐世保の地元の企業に流れ込み

ます。LCACの建設には、多額の費用が充てられました。

5. 佐世保は、第七艦隊所属の艦船にとって、寄港する港の中で評判が高く、乗組員達は、温かく迎えてくださる佐世保の評判をすぐに実感します。乗組員数約5千人の航空母艦が寄港しますと、地元へ一日およそ100万ドルの経済効果があります。(それには、個人の買い物で使うクレジットカードの売り上げは含まれません。)

私が横須賀やアメリカ本国に出張すると、いつも強調して話すことがあります。何より、私が一番力を入れたと思っているところです。それは、佐世保市民の皆様のことです。兵隊達が、出港から帰ってくると、「ホーム」に戻って来られて嬉しい、と話すのをよく耳にします。

さて、「佐世保」に戻ってくる、ということと、「ホーム」に帰ってくる、とは違います。これは重要な違いです。私が知る限り、他の海外勤務地と比べて、佐世保ではより多くの兵隊が、この言葉を使っています。故郷にいるような落ち着ける場所こそが、彼らのいう「ホーム」なのです。もちろん、家族の元に戻ってこられることは嬉しいことです。しかし、「ホーム」というのは、近隣住民や地元のコミュニティーと、心地良く感じられるお付き合いのレベルでなければ、使われません。

いつもお世話になっている地元の皆様には、何かお返しをしたいと思います。毎月、兵隊、民間人、またその家族は、街の通りでゴミ拾いをしたり、海、動物園、養護施設などを清掃したり、そこでゲームなどをして交流を深めております。

兵隊達は、定期的にこのようなボランティア活動に積極的に参加しています。

彼らは、そういった活動に参加した後は、誰もが充足感で自然と笑顔になっています。

私は、新しく、当基地に配属になった兵隊たち、また、本国など次の任務地への転勤が決まって出て行く兵隊たち一人一人と話をします。

佐世保から転勤していくある兵隊のことが非常に印象に残っています。

彼は、家族と共に、早岐警察署付近に住んでいました。

その地域で、アメリカ人家族は彼らだけだったので、最初はとても不安がっておりました。しかし、ちょうど三週間が経つ頃に、地域の清掃活動があり、そこでその不安は一掃されたそうです。(彼らの前に住んでいたアメリカ人は、一度もその清掃に参加しなかったとのことでした。)すぐに、彼とその家族は、受け入れていただいていると、感じたそうです。

地元との交流活動は、60以上あります。そのうちのいくつかをここに挙げてみます。

- 佐世保防犯連絡会議
- 海上自衛隊とのパートナーシップ
- 陸上自衛隊とのパートナーシップ
- 佐世保日米協会とのパートナーシップ
- 陸上自衛隊相浦駐屯地英語課程(15年目)
- 日本の報道関係者とのオンレコでの定例会議
- 佐世保市長との定例昼食会議（四半期に一度）
- 在福アメリカ領事館と行う大学生基地研修
- 月に一度の、基地歴史探索ツアー
- 基地消防部隊と、佐世保市との消防相互援助協定

- 基地消防部隊と、西海市との消防相互援助協定
- 佐世保警察署との安全運転キャンペーン
- 商店街組合との、「友達作戦」パートナーシップ

最後に、共に国防という目標を持って努力をしておりますが、皆様のご協力、ご支援に深く感謝しております。

私達二国間のこの同盟関係がこれほどまでに強いのは、皆様のご支援あつてのことです。私は、日本で勤務することが出来て光栄に思います。そして、佐世保を「ホーム」と呼べることに幸せを感じています。

チャールズ W. ロック大佐 米海軍大佐

ロック大佐は、1987年にテキサスA&M大学を卒業し、海洋工学の学士号を取得しました。
 ロック大佐の海上勤務には、USSマーロン S. ティスデル（FFG 27）の戦闘情報士官、USSエイブラハム リンカーン（CVN 72）での電気士官、USSコール（DDG 67）とUSSレイテガルフ（CG 55）での作戦部長、USSドナルドクック（DDG 75）での副長、高速船SWIFT（HSV-2）の指揮官などがあります。
 ロック大佐の陸上勤務には、米国ヨーロッパ軍での管理・通信計画士官、米国同盟軍での軍事補佐官・政務官、米国同盟軍と連合軍最高司令部軍変革での副長補佐及び司令官副官、統合参謀本部戦略計画政策部（J-5）での課長、などがあります。
 ロック大佐は、海軍軍事大学で国家安全保障戦略学にて修士号を取得しました。
 ロック大佐が受章した章には、国防優秀功績章、国防功績章、功績章、統合軍功労章二つ、海軍・海兵隊勲功章二つ、その他様々な部隊章や遠征功績勲章があります。

Captain Charles W. Rock

Captain Rock graduated from Texas A&M University in 1987, earning a Bachelor of Science degree in Ocean Engineering.

Captain Rock's assignments at sea include Combat Information Center Officer in USS MAHLON S. TISDALE (FFG 27); Electrical Officer in USS ABRAHAM LINCOLN (CVN 72); Operations Officer in USS COLE (DDG 67) and USS LEYTE GULF (CG 55); Executive Officer in USS DONALD COOK (DDG 75); and Commanding Officer, High Speed Vessel SWIFT (HSV-2).

Ashore he has served as Command, Control and Communications Plans Officer, U.S. European Command; Military Assistant to the Political Advisor, U.S. Joint Forces Command; Deputy Executive Assistant and Flag Secretary to the Commander, U.S. Joint Forces Command and the Supreme Allied Commander, Transformation; and Division Chief, the Joint Chiefs of Staff, Strategic Plans and Policy Directorate (J-5).

Captain Rock holds a masters degree in National Security Strategy from the National War College. His awards include the Defense Superior Service Medal, Defense Meritorious Service Medal, Meritorious Service Medal, Joint Commendation Medal (two awards), Navy-Marine Corps Commendation Medal (five awards), Navy-Marine Corps Achievement Medal (two awards) as well as various unit and campaign awards.